

会 議	平成 30 年度 第 1 回幸田町総合教育会議 会議録
日 時	平成 30 年 6 月 6 日 (水) 開会 午前 9 時 閉会 午前 10 時 10 分
場 所	幸田町役場 4 階 401 会議室
構 成 員	町 長 成瀬 敦 教育委員会 教育長 小野 伸之 教育委員会 委 員 高橋 文代 教育委員会 委 員 平松 敏明 教育委員会 委 員 川口 江美子 教育委員会 委 員 山下 英雄
欠 席 構 成 員	なし
傍 聴 者	なし
構成員以外の出席者	企 画 部 長 近藤 学 企 画 政 策 課 長 三浦 正義 企 画 政 策 課 長 補 佐 横田 隆之 住 民 子 ども 部 長 都築 幹浩 子 ども 課 長 長谷 優一郎 教 育 部 長 志賀 光浩 次長兼学校教育課長 牧野 宏幸 生 涯 学 習 課 長 稲熊 公孝 学校教育課教育指導監 藤井 敦 学 校 教 育 課 長 補 佐 小塚 弘樹
会議に付した案件	○意見交換 ・地域に根ざした学校づくり事業について ○報告事項 ・多世代交流施設「豊坂ほっと館」の利用状況について
決 定 事 項 及 び 主 な 意 見 等	○地域に根ざした学校づくり事業について 各学校で独自性をもって計画し、新しいテーマにも取り 組んでいる。事業計画に沿って進めていただきたい。 ○多世代交流施設「豊坂ほっと館」の利用状況について 開館して以来、非常に利用者が多く好評である。他の児 童館に比べ、親子での来館が多いことが特徴である。

発言者	発言の主な内容
企画部長	○開会の言葉
町長	<p>○あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月28日に町長として着任した。大須賀前町長の教育行政への思いを引き継いでいきたい。</li> <li>・本町の教育の「あるべき姿」について、教育委員の皆さまと意見を交わしたい。また、この会議の場では、小・中学校のみではなく、子育てに関する部分も含めて、教育として考えていきたい。</li> <li>・幸田町出身の高校生が活躍された新聞記事があった。今後も、子どもたちが様々な分野にチャレンジできる環境を作っていきたい。</li> </ul>
教育長	<p>○あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令で定められた会議であるが、過去には町長と副町長が同時に出席いただいた。この会議を大事にさせていただいており、非常にありがたい。町長部局と教育委員会の円滑な連携につなげたい。</li> <li>・幼稚園、保育園でやってきたことが小・中学校につながる。それぞれの範疇（はんちゆう）もあるが、町内にある1つの高校も含め、一体となり、幸田の子どもたちが18歳になるまで見守っていききたい。</li> </ul>
町長	<p>○議題(1)意見交換</p> <p>「地域に根ざした学校づくり事業について」説明を求める。</p>
教育部次長兼 学校教育課長	<p>(1)「地域に根ざした学校づくり事業について」説明</p> <p>○「地域に根ざした学校づくり事業」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本町の学校教育の指導方針及び各学校の経営方針に基づき、各学校の伝統、地域性、環境等の特殊性、自主性等を十分に考慮した学習計画により、地域と学校が一体となった学習環境を構築し、児童生徒の学習意欲の高揚、心身の発達に寄与するもので、平成12年度から実施をされた事業である。</li> </ul> <p>○平成30年度の各学校の事業計画、事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの小学校において、米づくりや野菜づくりなど地域の方々に教わりながら取り組んでいる。</li> <li>・特に豊坂小学校では、「豊坂のナス」として、子どもたちが育て、収穫している。そのナスを、学校給食に取り入れたり、子どもたち自ら店舗へ出向き、地元の特産物として消費宣伝を行っている。</li> <li>・その他の小学校の特徴的な取り組みとして、坂崎小学校は地元保存会と協力して行う「里山の整備」、幸田小学校は自由広場「GTP」の整備、中央小学校は「三河万歳」クラブなどの活動、荻谷小学校は運動場の「芝生管理」、深溝小学校は「し・せ・い・よ・く」心と体を育てる5つの取り組みを行っている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校では、文化祭や体育大会、合唱コンクールの行事や地域の方々との交流活動など、3中学校それぞれ趣向を凝らした取組が計画されている。</li> <li>○当該事業の費用について <ul style="list-style-type: none"> <li>・この事業へは、町から委託料（年間総額 225 万円）として支出されており、平成 30 年度児童生徒数に応じて各学校に配分した。各学校の委託料は次のとおり。</li> <li>・坂崎小（209 千円）、幸田小（399 千円）、中央小（279 千円）、荻谷小（208 千円）、深溝小（212 千円）、豊坂小（221 千円）、幸田中（298 千円）、南部中（173 千円）、北部中（251 千円）</li> </ul> </li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○説明に対する意見聴取</li> <li>○確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校への委託金額はどのように決まるのか。</li> </ul> </li> </ul>
教育部次長兼 学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○回答 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算の範囲内で、均等割と児童生徒数割で配分している。</li> </ul> </li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域（学校）が、もっと事業をやりたくても予算の制限があるという理解で良いか。</li> </ul>
教育部次長兼 学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。本事業は、各学校に大変喜ばれている事業のため、要望を踏まえて予算要求をしていきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで同じ事業が（良い意味で）継続実施されてきた。</li> <li>・新しい要素を取り入れてみるのも良いと思う。現在で言うならば、IT 関係（情報の収集・活用）などを取り入れることで、変わった部分が出てくるのではないかと感じる。</li> </ul> </li> </ul>
教育部次長兼 学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○回答 <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、各学校の特色や地域性を踏まえ継続した取組を行ってきた。また、その時々に応じた事業の展開も見受けられる。</li> <li>・例えば、幸田中学校の「情報教育の充実と豊かな情操を育む教育環境の改善」では、「AI を活用した取り組みの充実を図る」といった新しい事業を展開している。</li> </ul> </li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっていることはとても良い。進化させるということで、情報の収集・発信をすることで広がりが出てくると良い。</li> <li>・例えば、「豊坂のナス」は地域の方から情報収集を行い、ナスを育て、店舗で消費宣伝として情報発信する事例。</li> </ul> </li> </ul>
教育部次長兼 学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○回答 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域（学区）内だけではなく、外にも広がるように支援していきたい。今後もこの事業を、各学校で生かしていただきたい。</li> </ul> </li> </ul>

委員	<p>○意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校と地域（コミュニティ）のつながりがすごく深いと感じた。小さい時からのこのような体験は、人としての育ちに影響していくと思っている。自分のまちを愛するとか、（地域の）大人との関わり方を育てていると感じた。こういうことを大事にして子育てをしていきたいと感じるようになった。</li> <li>・委託費については、使い方を決めてしまうのではなく、各学校の独自性を生かせるようにしていただき、しっかりと予算をつけてほしい。</li> </ul>
教育部次長兼 学校教育課長	<p>○回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。ありがとうございます。</li> </ul>
委員	<p>○質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、子どもが学校で農業体験をしてくるのか、初めて知ることができて良かった。</li> <li>・各学校の企画内容は、町（学校教育課）からある程度「これをやってほしい」という要望があるのか。それとも学校の希望どおりに承認しているのか。企画内容を町が修正することはあるのか。</li> </ul>
教育部次長兼 学校教育課長	<p>○回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の自主性に任せている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒数に応じて予算配分をしているとのことだが、新しいことにも取り組めるよう、別枠を設けてはどうか。新しい良い提案があれば、予算が追加されるようなチャンスがあると良いと思う。</li> </ul>
教育部次長兼 学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算のしぼりがあるので、新しいことはやりにくいと感じる。</li> <li>・予算の範囲内ということを前提に、別枠を設けることの可否について検討していきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・了解した。</li> </ul>
町長	<p>○意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校の独自性」とは、校長先生の独自性か、学校の先生の思い入れか、昔からその地域に根付いたものなのか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊坂小なら「すもう」と「なす」、中央小なら「三河万歳」など、昔からある、地域が大事にしているものを学校が大事にしてくれていることであり、そういった活動が良いと思う。</li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その地域に続いているもの、根付いているものが「学校の独自性」とすると、地域と学校の関わり方を考える必要がある。</li> <li>・以前、学校内のビオトープ作りに関わったことがある。学校、地域と一緒に作って作った。水車まで作ってくれる地域の方がいたが、現在では水車を直すのは難しいこと。その中で、未だビオトープを残してくれているのはありがたく感じるが、先生や子どもたちのテ</li> </ul>

	<p>ーマに合っているか心配である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までやってきたことを継続するのも大事だが、その時々校長先生、先生、子どもたちの思い入れがあっても良いと思う。</li> </ul>
教育部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前、ビオトープのある場所に公共施設を建設する構想があったが、多くの地域の皆さまから「思い入れのあるビオトープをなくさないでほしい」との意見をいただき、見送った経過がある。</li> <li>・地域なり、学校なり、自分たちが整備してきた場所には、思い入れがあることを痛感した。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビオトープの維持管理は大変である。当初は地域の人に面倒を見ていただいたが、将来のことを考え、PTAの役員に学校の奉仕作業の時に手入れをしていただくようになり、ずっと続いている。</li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔ながらの自然体験としてのビオトープ、新しいAI等の情報教育といったテーマもあり、いずれも良い取り組みをしている。</li> </ul> <p>○新しいテーマについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育として、携帯（スマートフォン）や動画をうまく使って教育につなげていければと考えている。そこでは、日本の文化を代表する「アニメ（動画）」をうまく使いたい。この地域で活躍した人たちの生きざまを「アニメ」にして、人の生き方について学ぶ機会を、情報教育の中で活用できたら面白いと思っている。</li> <li>・南部中学校の「生き方講演会」が計画されている。人それぞれに生き方がある中、地域の方が講師をされるようで大変興味深い。どのような方がお話をされるのか。</li> </ul>
教育部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の新しいテーマであり、まだ詳細はわからない。次の機会に報告させていただく。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独自性と新しいもの、情報を収集し、発信していくことは大事なことだと感じた。校長にも伝えていきたい。</li> <li>・昔に比べ、学芸会や合唱コンクールのレベルが相当高くなっている。これは、この委託金を謝礼として活用し、プロの人をお呼びし、指導をいただいていることが要因である。</li> <li>・新しいことを始めることにより、これらの費用を削減してしまうと、学芸会や合唱のレベルが下がってしまうことが懸念される。先生方からすると、折角根付いてきた取り組みを変えることとなり、不安になると考える。どの学校（先生・児童生徒）も学芸会、合唱コンクールには力が入っている。</li> <li>・新しいことを始めるには、更に予算をつけるか、一度白紙に戻さないと難しいと思う。</li> <li>・新しいこととして「アニメ」という考えはなかった。今後、プログラミング学習が必須になってくる。それと、アニメとスマートフォ</li> </ul>

	ンは近いところにあるので、立ち上げるときに参考としたい。
委員	<p>○意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料以上に) もっといろんなことをやっているように感じる。</li> <li>・クラブ活動の講師や「ホテルを観る会」の前には、地域の方が草刈りをされたりして頑張っている。校長先生が変わると中止を提案されることもあったが、地域の方はなくさず続けてきた。こういう行事を通じて、地域の方がもっと活躍してほしいと思う。お願いすれば、喜んで協力してくれて、子どもたちのためになると思う。</li> <li>・コンピューター関係については、子どもたちはついていけるが、先生が更に頑張らなくてはいけない。多忙化解消との関係が心配。</li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動に先生がどこまで協力してやっていくのかという点は、それぞれの考えがあると思う。</li> <li>・「ホテルを観る会」は、地域の人たちが伝統的に続けてきて、町全体の行事へと変わった。守らなくてはいけない行事は、地域の人が確実に抑えていく必要があると思う。</li> <li>・今年の「ホテルを観る会」は。</li> </ul>
生涯学習課長	<p>○「ホテルを観る会」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月8日の金曜日に深溝小学校で開催予定。是非ご参加願う。</li> <li>・町のライフサークル事業であるが、深溝小学校の先生、PTA、地域の方々が熱心に活動されている。深溝小学校区の方が中心であるが、町全体から参加できる。伝統的な事業なので、生涯学習課としても最大限のお手伝いをして盛り上げていきたい。</li> </ul>
町長	<p>○伝統の継承について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習課が取組む事業である「凧揚げまつり」は、幸田の「三州凧」として全国にもアピールできる、町の正月の伝統行事になってきた。しかし、凧を揚げる(作る)技術をもった人たちは年々高齢化している。</li> <li>・中央小学校は、三州凧の文化を継承しようということで凧作りを行っている。「凧揚げまつり」を町の伝統事業とした場合、小学生の頃の楽しい(凧作りの)体験が、伝統文化の継承につながると思う。是非続けてほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何年か前に幸田小学校のPTAの皆さんが、学区内の川をきれいにし、たくさんのホテルが出るようになった場所がある。</li> <li>・お祭りのお囃子を続ける人がいないと聞いている。町が大事にしていくことを、先生にも理解をいただいて、学校に取り入れていけると良いと感じた。</li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幸田小学校では(お囃子に)取り組んでいたと思うが。</li> </ul>
教育指導監	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年前は、古い楽器を演奏する「雅楽クラブ」があったが、講師の</li> </ul>

	都合によりお休みになってしまった。しかし、子どもたちが「雅楽クラブをやりたい」という強い思いから、改めてお願いし、今年度復活する予定であった。実際に復活しているかは確認する。
町長	○確認 ・この（地域に根ざした学校づくり）事業の実績報告はあるか。
教育部次長兼 学校教育課長	・年度末に（各学校から）実績報告をしていただく。
町長	・これらの事務は、学校のどなたが担当されているか。
教育指導監	・教頭若しくは教務主任が担当している。
町長	・各学校で計画し、新しいテーマにも取り組んでいる。事業計画に沿って進めていただきたい。  ▼以上で(1)意見交換については、終了とする。 ○(2)報告事項 「多世代交流施設『豊坂ほっと館』の利用状況について」説明を求める。
子ども課長	(2)「多世代交流施設『豊坂ほっと館』の利用状況について」説明 ○豊坂ほっと館その他の児童館の利用状況（平成30年4月、5月） ・ほっと館は、平成30年4月1日に開館して以来、非常に利用者が多く好評である。ほっと館に合わせ、町内児童館の利用状況についても報告する。 ○開館日数 ・4月、5月共に全館25日間、休館日は月曜日と第3日曜日で、4月は5日、5月は6日であった。 ○各館の利用状況 ・施設ごとに、利用者区分の月・累計ごとの人数、1日あたりの平均利用者数を報告する。なお、利用者区分のその他というのは、高校生以上の利用者を差している。単位については、「人」とする。 ・豊坂ほっと館：乳幼児4月853、5月913、累計1,766、小学生1,612、1,048の2,660、中学生184、144の328、その他1,120、1,193の2,313、合計で3,769、3,298の7,067、4月の平均日利用者150.8、5月131.9、2か月平均141.3 ・横落児童館：乳幼児4月57、5月60の117、小学生574、380の954、中学生122、71の193、その他：88、78の166、合計841、589の1,430、4月平均33.6、4月23.6、2か月平均28.6 ・幸田児童館：乳児52、39の91、小学生376、356の732、中学生259、71の330、その他52、47の99、合計739、513の1,252、4月平均29.6、5月平均20.5、2か月平均25.0

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深溝児童館：乳幼児 238、228 の 466、小学生 582、607 の 1,189、中学生 45、11 の 56、その他 262、256 の 518、合計で 1,127、1,102 の 2,229、4 月平均 45.1、5 月平均 44.1、2 か月平均 44.6</li> </ul> <p>○ほっと館の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図及び施設概要はパンフレットにて確認いただく。</li> </ul>
町長	<p>○補足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大須賀前町長が最もやりたかった事業の一つであった。</li> <li>・今後、幸田・坂崎小学校区へも広げていく構想である。</li> <li>・子どもからお年寄りまでというテーマもある。お孫さんと訪れていただき、双方がふれあうことができる場所としていきたい。</li> <li>・施設のつくりや色合いについても、地域の環境を意識した。また、騒音や駐車場の出入りなど、周辺住民の皆さんに迷惑をかけない施設にするため、いろいろ相談させていただきながら整備を進めさせていただいた。次の施設づくりにも生かしていきたい。</li> </ul> <p>○説明に対する意見聴取</p>
委員	<p>○質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の保護者は、「その他」に含まれるのか。</li> </ul>
子ども課長	<p>○回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その通り。他の館に比べて、親子（小学生）で来ることが非常に多い。</li> </ul>
町長	<p>○質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動室の利用状況は。どのような利用が多いか。</li> </ul>
子ども課長	<p>○回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予約制として会議室を地域の方にも利用していただいている。</li> <li>・この施設が、女性の起業とか就労支援を行う施設でもあることから、5 月は、蒲郡市の「若者サポートステーション」が就労支援の相談会を 1 回行った。ハローワークの就労支援相談の場として利用したいと聞いている。</li> <li>・一般の方からも利用申請をいただいている。</li> </ul>
町長	<p>○確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卓球が人気で独占されるようなケースがあると聞いた。どのように順番を回しているのか。</li> </ul>
子ども課長	<p>○回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卓球台は 2 台ある。指導員からは、子ども同士ではなく親子（子どもと大人）のケースが多いと聞いている。次を待っている人がいたら、1 ゲームで交代するようにお願いしている。（指導員が注意している。）</li> </ul>
町長	<p>○質問</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も2つの学区に整備を計画しているが、子ども課長として現段階での課題や今後の展望があれば。</li> </ul>
子ども課長	<p>○回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場と駐輪場が少ないこと。施設が新しいため来館者が多く、現在は、豊坂保育園駐車場や野場防災倉庫の一部をお借りして対応している状況。今後の施設整備の際は注意していきたい。</li> <li>・本施設は、名古屋大学の太幡准教授監修により、木造建築となった。木のぬくもりが感じられ良い点もあるが、角やとがった部分があったことからクッション材での保護や角をとったりする必要があった。最初から、デザインと安全面に配慮することができたら良かったと思っている。</li> <li>・利用については、2カ月経ち、慣れてきた子どもたちのマナーが良くなってきたが、大人たちがなかなか覚えられない様子。多世代交流施設であるが子ども中心の施設であるため、仕方ない部分もある。今後の施設については、子ども中心の施設であることを明確にした方がよいと感じている。</li> </ul>
教育長	<p>○意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとお年寄りが交流できる場所という観点から、10年ほど前に、東北地方の学校を視察した。そこは、学校内の教室（家庭科室）とお年寄りが活動する部屋が併設されているケースであった。すぐ近くにいるお年寄りが講師をすることもあり、お年寄りにとってはやりがいを感じ、子どもたちはその知識を直接学ぶことができるという良い影響が期待できるとのことで、面白い発想だと感じた。</li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの施設の中で、お年寄りと子ども、それぞれが楽しめるスペースが確立されたうえで、「交流しても良いよ」というスペースがあるという考えが必要と思う。</li> <li>・お年寄りが、老人福祉センターで楽しむことも良いと思うが、車に乗らずに（歩いて）行ける近所の施設で楽しんでもらえると良い。</li> <li>・豊坂ほっと館は、事業を推進するうえで場所の選定が一番大事だった。住宅地に近いところへ立地していくには、地域の方へ説明をして、進めていく必要があることを改めて勉強させていただいた。</li> </ul> <p>▼以上で(2)報告事項については、終了とする。進行を事務局へ戻す。</p>
企画部長	<p>○次回の開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回は10月頃、新年度予算を主なテーマとして開催する予定。</li> </ul>